



田植え後の管理



○水管理

活着するまでは田植え時の植え痛みで、根からの吸収能力が低下しています。その影響を軽減するとともに活着や除草剤散布の効果を高めるために深水管理としましょう。活着後は水温および地温を上昇させるため、好天の時には2～3センチの浅水とし、気温が15℃以下となる低温や、強風の時には深水とするなど、こまめな水管理に努めましょう。

○取り置き苗は早期に処分

取り置き苗は、いもち病の発生源となります。田植えが済んだら取り置き苗は直ちに処分しましょう。葉いもちを押さえることが、穂いもちを押さえるポイントです。

○カメムシ防除のため6月上旬にも畦畔の草刈りを行いましょう

カメムシの成虫は年2～3回発生します。6月上旬の草刈りはカメムシの1回目の発生量を抑制し、その後の発生量も少なくする効果があります。地域一斉で行うとより効果的です。ので計画的に実施しましょう。

※注意

これから気温が上昇する時期となります。作業時はこまめに休憩や水分を取り、農作業事故に十分気を付けましょう。

農薬使用時はラベルをよく読み、散布量や希釈倍率を間違えないように注意しましょう。